

【別紙様式 1】

大分市立野津原小学校 学力向上プラン 1（8月）	
学校教育目標	ふるさとを愛し 夢に向かって主体的に学び 行動できる児童の育成
育成を目指す資質・能力	○自分の考えを理由や根拠を示しながら、文章に書くことができる書く力 ○主体的に自ら学び、行動できる力

	学力状況について	学習状況について
児童生徒の課題	各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 ○国語や理科は基礎・基本の定着については、おおむね良好である。算数においては、学年によって定着が不十分であった。 ○下学年における基礎・基本が、算数は特に身に付いていない。 ○資料から必要な情報を読み取ったり、資料をもとに考察したりする等の活用力に課題がある。 ○各教科とも問題を読み取る力、自分の考えを表現する力に課題がある。 ○書く力については、目的に応じて文章の構成を考えたり、相手に応じて書き表し方を工夫したりする等、重点的・継続的に育成していく必要がある。	各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 ○児童アンケート(1学期)で「家で毎日決められた時間の学習をしている」は、学校全体では86%であったが、特に高学年に課題が見られる。 ○保護者アンケート(1学期)で「お子さんは、家で毎日決められた時間の学習をしている」は、学校全体では70%である。家庭学習の習慣化に課題が見られる。
	これまでの学力向上の取組に対する児童生徒の状況(授業及び授業以外の側面から) ○児童アンケート(1学期)の結果を見ると、「授業が楽しい」が92%、「授業がよく分かる」が95%、「授業中、自分の考えを書くことができている」が94%と達成指標(80%)を上回ることができた。しかし、「授業中、自分の意見や考えを話したり、発表したりできている」は79%であり、達成指標(80%)を僅かに下回っている。 ○単元末テストの平均正答率(1学期)で、算数は5・6年生で6割未満の児童が20%程度となっている。学年が上がるにつれ、国語・算数ともに平均正答率8割以上の児童の割合が下がる傾向にある。	
指導の状況	1 組織的な授業改善の取組状況 ○教職員アンケート(1学期)の結果から、「こどもは学校の授業が楽しそう」は91%、「こどもは学習内容を理解している」は82%であった。 ○学習部が中心となり、児童アンケートや各種学力調査・単元末テストの結果を分析し、「学校経営計画表」検証・改善シートにおいて改善点の明確化・共有化を図り、校内研修においても、参観の視点を明確にした授業検証等を行う等、授業改善に意欲的に取り組んでいる。 ○「書く」活動については、各教科において取組を進めており、それぞれの学年に応じたモデルを目標に継続して取り組んでいる。 ○昨年度から互見授業を実施しており、今年度も2・3学期で実施予定にしている。 2 その他の学力向上に向けた指導の取組状況 ○毎週、国語・算数のスキルタイム(朝の活動:15分間)を1回ずつ実施し、より確実な実施及び時間確保のために授業時数にカウントしている。さらに学級タイムを週2回設定し、学級の状況に応じて補充学習を適宜実施できるようにしている。 ○保護者による学習サポーターを導入し、授業の見守り(授業参観)や実習等の補助を実施している。 ○3・4年生の希望者を対象とした、地域の教職員経験者等による「のっはる塾」を年間20回程度実施している。	

学力に関する達成指標
○単元テストの平均正答率8割以上の児童70%、6割未満の児童10% ○「こどもは学校の学習内容を理解している」と回答する教職員85% ○「授業中、自分の考えを書くことができている」「授業中、自分の意見や考えを話したり、発表したりできている」と回答する児童80% ○「家庭学習ができている」と回答する保護者80%

今後の具体的な取組	【授業改善】		【家庭・地域との協働】	
	〈授業改善のテーマ・重点〉 【テーマ】主体的に関わり、協働的に学ぶ児童の育成 【重点】思いや考えを伝え合う場の工夫 「書く」活動の充実			
	【教員】	【児童】		
	〈取組内容〉 ○児童が意見を交わしたくなるような課題の設定 ○学習活動(ペア活動やグループ活動等)の工夫 ○話型を活用した自分の考えを話す場の充実 ○タブレット端末を活用した授業の設定	〈取組内容〉 ○思いや考えを伝え合う活動に取り組む。 ○条件が設定されている「書く」活動に取り組む。 ○視点を捉え、次の活動につなげていけるような振り返りをする。	〈家庭・地域の取組内容〉 ○「野津原学び方マニュアル」を活用し、保護者と連携する。 ○保護者・地域住民に学習サポーターを依頼する。 ○地域の教職員経験者等による「のっはる塾」において補充学習を依頼する。	
	〈取組指標〉 ○教材研究や授業構想時に、話し合い活動をどのタイミングで行うか見通しをもっておく。 ○ペア活動やグループ活動等を毎時間1回以上は設定する。 ○振り返りでは視点を設定する。	〈取組指標〉 ○授業で自他の思いや考えを伝え合う活動に毎時間1回以上取り組む。 ○自分の考えや思い、振り返り等を「書く」活動に毎時間1回以上取り組む。 ○振り返りの視点に沿って、「書く」活動に取り組む。	〈家庭・地域の取組指標〉 ○学年通信、学級懇談会等で家庭学習についての情報共有をする。 ○保護者・地域住民に学習サポーターを毎月依頼する。	
	〈検証指標〉 ○単元テストの平均正答率8割以上の児童70%、6割未満の児童10% ○「こどもは学習内容を理解している」と回答する教員85% ○「こどもは、主体的に学んで(自分の考えを書く活動や伝え合う活動、ふり返しなど)いる」と回答する教員90% ○「事前の授業計画の中で、児童が望むであろう交流活動を組み込むことができている」と回答する教員90%	〈検証指標〉 ○「授業が楽しい・授業がよく分かる」と回答する児童90% ○「授業中、自分の考えを書くことができている」「授業中、自分の意見や考えを話したり、発表したりできている」と回答する児童80% ○「授業が終わった後、ふり返しができる」と回答する児童90%	〈家庭・地域の検証指標〉 ○「家庭学習ができている」と回答する保護者80% ○学習サポーターに参加した保護者の延べ人数月5名	
	【授業改善以外の学力向上の取組】 ○各種学力調査の分析を学習部を中心に行之い、児童の学力の実態について分析し、授業改善につなげる。 ○教室及び校舎内に学習に関する掲示物を掲示し、学習の過程・成果等の「見える化」を図る。 ○「人間関係づくりプログラム」を担当や担任外の教職員が週1回実施し、授業中の「ペア・グループトーク」の活性化を図る。 ○互見授業を行い、授業展開・導入・課題などを実際に見せ合い、教職員同士で授業力の向上を図る。 ○3・4年生の希望者を対象とした、地域の教職員経験者等による「のっはる塾」を年間20回程度実施する。			